



中部文具工業協同組合 バス旅行



10月26日に中部文具工業協同組合のバス旅行に参加させていただきました。今年には2020年大河ドラマ「麒麟がくる」の舞台にもなっている兵庫県丹波篠山市へ篠山城大書院見学と周辺の自由散策、黒枝豆の収穫を体験しました。篠山城跡を中心とした古い街並みに癒され、名物の小西の黒豆パンをお土産に、名産品の入った美味しいチーズケーキも頂きました。天気にも恵まれ楽しい1日を過ごし、リフレッシュできました。(円道)



歳を重ねたことでの変化

森 直樹 (代表取締役社長)



今年も残すところ1ヶ月と少しになりました。ようやくと冬らしい天気にもなりつつありますが、まだまだ陽気な日も多く例年以上に気候の変化を感じております。審査方法も刷新されて再開致しましたPVCアワード、弊社よりは30点近い出品をしました。現在審査中ということですが大賞受賞作品が出るのか？非常に楽しみにしております。来年は私も40台の真ん中、45歳を迎えますが、40を越えて感じる身体の変化は多々あります。まず老眼、朝夜の新聞やスマホなど細かい文字が見えにくい。まだなんとか困らない状態ですが。胃腸も夜のこってり系のラーメンはまず手が出ません。翌日までも消化されず残っているような感覚になります。蕎麦が美味しくなりました(笑)。また睡眠では、少しでも寝る時間が遅くなると、翌日の体調に大きく影響します。普段23時から24時には寝ますが、1時を越えると睡眠時間の長さに関わらず翌日は頭がどんよとした状態になります。かつては睡眠のゴールデンタイムは22時から2時という説が有りましたが、現在の研究ではそれよりも睡眠時間とその睡眠の深さが大切とのこと。幸い寝付きは良いので(良過ぎると言われますが)、今後も規則正しいリズムを守れる生活を続けていきたいところです。さらに、経験を積んだことに関してはその判断も即時に出来るが、思い込みから事実を見極めることが鈍くなる時もあります。何も知らない時期は却って状況を素直に受け止めることが出来ましたが、今は見えていない部分も変に自信を持って推察することがあり、年齢=経験を積むことの良い部分と悪い部分を実感することが自分の年齢を実感するときです。幸い健康に関しては問題無いようですので、来たる2020年もこの調子で過ごせることを願います！

ラグビーワールドカップ 2019

牧野 光昌 (企画営業部)



2019年も残すところ、あと1ヶ月となりました。私が今年一番盛り上がりを感じたのは『ラグビーワールドカップ2019』で日本代表が8強入りした事です。ワールドラグビーでは「一度ある国の代表として試合に出た選手は、他国の代表になることはできない」と19世紀より定められています。しかしその条件は結構緩く、自身や両親や祖父母の国籍や出生地、のいずれかが対象条件になりますが、それに関わらず、自身が3年以上住んでいる国であれば、代表になれるそうです（ただし、2020年末からは5年以上に変更予定らしいです）。そんな理由で日本チームと言いながらも屈強な外国人が多い訳です。これは発祥の地『大英帝国』の植民地時代の歴史が関係していると言われております。今回の大会でも分かりますが、強豪国は英国の旧植民地だった国が圧倒的に多いです。世界の1/4の領土が元英国領の植民地だったと言われております。統治時代に植民地に派遣されたイギリス人の中には現地人と結婚し、子供を儲け、居住し、馴染み、現地の人と一緒にラグビーを楽しむようになった人も多く居たのだと思います。そうして『大英帝国』は世界に先駆けて『多民族・多文化社会』を植民地という形で作り上げ、今で言う『ダイバーシティ（多様性）』を推進する国となったのでしょう。日本は単一民族国家で二重国籍はNGです。しかし、今回ラグビーという文化に触れ、「これが世界的なスタンダードなんだ！」という思いがひしひしと伝わってきました。『国籍ではなく、ONE TEAM』これこそが日本代表の誇りであり、その魂のこもったプレーが我々に感動をもたらしてくれた事に思いっきり感謝したい2019年でした。しかし、発祥の地の代表選手が準優勝メダルを首にかけなかった事は思いっきり、残念でした。

ツーリング

加藤 雅昭 (企画営業部)



近頃昔の友人やお知り合いさんなどとツーリングに行くようになった。昔はとがったバイクでコーナーや高速を我が物顔で走っていた面々もいますが、今や皆さんいっぼしの初老ライダー。夏でも革のツナギを着て、200km以上で走ると布のジャンパーが破れるからとか言っていた連中が、夏だとアロハシャツに短パンで参加している...時代は変わりますね。前回集まった47台中カブが40台、スーパーカブやクロスカブ、いろいろいじってあつたりしますが、125cc以下なので四輪車の任意保険ファミリーバイク特約に入れるので余計に流行っているそうです。11時頃三河湖の観光センターよりもう少し奥の広場で集合し、ラーメンを食べて（焼肉や鍋をする方々もみえますが）話し、14時頃には解散、遠くは静岡から見える方もいらっしゃるの、明るいうちに帰れる時間帯です。現地集合の現地解散、さすがに40台以上連なって走るの迷惑だし、ついつい昔の癖でコーナーを攻めだしたりしてもまずいので、のんびりツーリングです。トンカメツーリングとの名前になっていますが、徘徊老人クラブともいわれています。年齢層も40才台から



70才台くらいまでとちょっと高年齢。11時からなのに7時頃に来る早朝徘徊老人クラブに参加の皆さんもみえます。早朝の部は、朝7時頃三河湖の観光センター前のベンチでコーヒーを飲もうという会です。

たまに野間灯台の下でも行っていますよ。流石に深夜徘徊はありませんね。昔は深夜も関係なく集まっていたのですが、さすがにお歳になると夜は疲れますからね。リタイヤした方や、現役の方、いろいろな職業の方が見え、とても楽しい会です。いつまでもこんな仲間たちと走れるよう、体調には気を付けていかないとね。

還暦

岩間 正美（製造部）



十一月十五日に還暦を迎えました。その還暦について意味をちゃんと知らなかったので調べてみました。「還暦（かんれき）」といえば、60歳のお祝いです。還暦祝いは中国で発祥し、日本には奈良時代に伝わったといわれています。伝わったばかりの頃は、貴族階級の間だけで行われており、室町時代から江戸時代にかけて民間にも広まったようです。還暦という言葉の意味は、日本でもおなじみの十二支（じゅうにし）と、「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の十干（じっかん）を組み合わせた、干支（かんし／えと）が関係しています。十二支と十干の組み合わせは60種類にもおよび、人間が生まれてから60年経つと、この60種類の干支が一巡します。このことから「生まれたときと同じ暦に還る（赤ちゃんに還る）」という意味で「還暦」と呼ぶようになりました。還暦をお祝いする時期は、本来であれば数え年で61歳になったときですが、最近では満60歳になる誕生日にお祝いするケースが増えています。還暦祝いで贈られる赤いちゃんちゃんこ。なぜ赤いちゃんちゃんこを贈るのでしょうか？その理由は、赤い色に「魔除け」の力があるとされていたことと、ちゃんちゃんこが赤ちゃんに着せる羽織だったことにあります。赤ちゃんを病気や悪いものから守るために、魔除けの力があると考えられていた「赤い色」のちゃんちゃんこを着せていたのです。そのため、「生まれたときと同じ暦に還る（赤ちゃんに還る）」という意味を持つ還暦に、赤いちゃんちゃんこを贈るようになりました。これまでの労をねぎらい、「これからも長生きしてね」という願いが込められています。妻・娘・息子たちも還暦は特別なものということで、普段の誕生日とは違う少し贅沢なお祝いをしてくれました。さすがに「赤いちゃんちゃんこ」は断り、他の物にしてもらいました。会社も60歳で定年。これからは再雇用していただけるということで仕事は続けさせていただきますが、還暦で一区切りついたのかなという思いです。これからは仕事は頑張りますが、プライベートでは夫婦でもっと旅行なども行ってみたいと思います。（足腰が元気なうちに）60歳 まだまだ若い！頑張ろう！



嵐山

西垣 浩司（製造部）



先月妻と二人で嵐山へ観光に出かけてきました。景観が良く観光地として人気の高い嵐山です。嵐山といえばメジャーなスポットで「竹林の道」や「竹林の小径」が有名ですが、一度も観光をした事はありませんでした。竹林の道がある入口周辺には嵐山でも名物になっている「豆腐」をつかった商品を売る店や、お土産屋が広がっています。その中でも「嵯峨豆腐 三忠」と「京豆庵・Kyo-zuan」という店に人が集まっていたので見てみると、豆腐スイーツが売られていたので食べてみることにしました。手作り工房ということで豆腐を使ったソフトクリームやドーナツなどが売られているお店で、中でも豆腐ソフトクリームが人気のようで人が結構集まっていました。嵐山「竹林の小径」の見どころは荘厳な竹林で、背の高い竹が周囲を覆い隠し、幽玄な世界を作り出しているところが非日常的で、そのため太陽の出ているときは木漏れ日がきらきらと地面に映り出し、何ともいえない素敵な情景をつくりだします。一方、太陽の出ていない時もなかなかのもので、風が吹いているときは、耳を傾けてみると風により、竹の葉が触れ合い独特の音が聞こえ、雨の日でも晴れの日とはまた異なった情景を見せてきます。時間があれば、人力車にのって竹林を楽しむのもいいでしょう。嵐山「竹林の道」は有名なだけあって中々見応えのある観光スポットでした！嵐山全体の観光としてはほんの入り口部分になるので、「竹林の道」を歩き終わってからが観光です。二人で一日を満喫することが出来ました。



中村区 区民まつり

令和元年
10/26(土)



森松（名古屋）武将隊もパレードに参加してきました！！



天空の城

伊藤 雅典 (森松産業)



皆さん、以前天空の城ということで竹田城（兵庫県）が騒がれたことがありましたが、まだまだ色々あるということをご存知でしょうか。雲海が、発生すると空にあたかも浮かんで見える山城のことです。日本には、16の城があるそうです。しかしながら、実際に自分の目で見ようとすると大変な様です。見ることのできる季節・時間・場所・天候など色々な条件が整わないと見れないようです。明け方に山に登り、城を見に行くなんて凄くマニアックですね。しかし、史跡等を見学しに行く時は、桜の季節・紅葉の季節等よく調べた上で向かいたいものです。次回は、備中松山城（岡山県）に行きたいなと思っています。



2層2階の小さな城ですが、重要文化財にも指定されています。現存する天守で最も高く（海拔430m）に建てられており、日本三大山城の一つにも選ばれています。是非とも、雲海に浮かぶ備中松山城を見たいものです。でも体が持つか若干不安な気もしますが...